

## 次期情報セキュリティ基本計画のあり方などについて

首都大学東京法科大学院教授 前田雅英

### 1 第一次基本計画の達成度と第二次基本計画

重要インフラに関する取組みと、政府機関統一基準に関しては、第一次基本計画は、ほぼ満足のいく成果をもたらしているように思われる。各企業集団や各省庁を、当初考えた以上にリードすることが出来たと評価する。第二次計画は、その成果を如何に継承・発展させるかが重要だと考える。

政府の情報システムの安全確保という視点からは、今回提案されている「S B D」は、効率的で有効なものと考えられる。しかし、注意しておかねばならないのは、各省庁の現場の微妙な使い勝手と実践的な機能性が重要であるという点である。また、これまで蓄積してきた個々の情報システム構築のノウハウもそれなりに尊重する姿勢が必要である。もとより独りよがりになりがちな面があることに注意しなければならないが、実際の使用者の主体的に取り組む意欲を引き出していかねばならない。その意味で、システムの設計当初からチェックすることを可能とする統一基準を示すことは合理的であるが、「妥当なシステム」をトップダウン的に提示するように見えることは、厳に慎むべきだと考える。

### 2 国民がIT社会に感じる不安の除去の必要性

これまでも指摘してきた、「IT社会が国民生活に与える負の側面」の解消の方策の必要性は一層高まっている。裏職業サイト、小中学生のいじめの手段として使われるサイトなど、国民が眉をひそめざるを得ない事態もかなり存在する。ITネット社会における情報発信者のモラルの向上・ルールづくり等に政策会議も関心を持つ必要があることを再度強調したい。

情報セキュリティ政策会議基本計画検討委員会での検討が今後始まるとのこと、「利用者にとってのセキュリティ」という視点からも検討が進むよう、この問題について必要に応じて発言していきたいと考える。